

■高杉の3TDランで北海学園大快勝。北大－東大は悪天候で打ち切り

春季オープン戦は第2日の6月16日、第48回すずらんボウルとして札幌市円山競技場で2試合を行った。北海学園大はRB高杉武生（4年、浦河高）の3TDランで、釧路公立大に20－3で快勝した。北海道大が創部50周年を記念して関東1部トップ8の東京大を招いた第2試合は、東京大が14－0とリードした第2Q10分に落雷の恐れが高まり中断。その後降雨でグラウンドコンディションが悪化し、打ち切りとなった。

北海学園大－釧路公立大は両チームのQBが注目を集めた。北海学園大はWRからコンバートされた成田滉佑（3年、札幌白石高）が初先発。第1Q3分にRB高杉の3ヤードランで先制すると、DB齊藤颯（2年、札幌稲雲高）のインターセプトで攻撃権を得た第3Q10分には高杉の3連続キャリアで追加点。第4Q9分にも、DB佐藤允哉のインターセプトから高杉、QB成田滉が運び、最後は高杉が5ヤードを駆け込んだ。QB成田滉はWR加藤真之助（3年、札幌藻岩高）へ23ヤードを含む5本のパスを通し、新ホットラインをアピールした。



釧路公立大は山口響生（4年、札幌清田高）、中西亮太（3年、旭川商高）、石川諒（1年、根室高）の3QBが交代で指揮を執った。先発の山口がRB山崎涼太郎（4年、北見北斗高）とRB田中巨人（4年、足寄高）のランでボールを進め、第2Q1分にK北館来星（3年、岩手・盛岡市立高）の37ヤードFGで3-7と追いつけた。QB中西は第2Qにパスを狙い、QB石川は第4QにエースWR高坂俊輔（4年、滝川西高）へ連続でパスを通して、敵陣1ヤードまで迫った。



北海学園大の高木幸樹HCは「高杉は安定している。成田滉と加藤のホットラインは何とかしたい」と期待を寄せた。RB高杉は「2年連続のリーディングラッシャーを目指したい」、QB成田滉は「思ったプレーの半分もできていない」とレベルアップを誓った。釧路公立大の伊藤祐介HCは「3人のQBは全員が先発を狙っている」と期待し、主将のRB山崎は「エンジンがかかるのが遅い。釧路に帰って修正したい」、1年生QBの石川は「パスでTDまで行きたい」と決意していた。

第2試合は、ライン戦で上回る東京大が第1Q9分にF Bダイブで先制し、第2Q8分にQ Bキープでリードを広げた。北海道大は自慢のランがゲインできず、決め手を欠いた。北海道大の樋之本彬HCは「一発のタックルで仕留めるのが課題だった」と巻き返しを期待した。

